戦争と平和の資料館
ピースあいちニュース
第46号
2024年7月15日発行
〒465-0091
愛知県名古屋市名東区
よもぎ台2丁目820
電話・FAX 052-602-4222
発行:戦争と平和の資料館ピースあいち　http://peace-aichi.com/　【定価:30円】

予告

ピースあいち夏の特別企画「マンガと戦争展」

2024年7月23日（火）～9月14日（土）（＊最終日は15時まで）

「マンガと戦争展」は、2015年に京都国際マンガミュージアムで最初に開催され、その後各地を巡回し好評を博したものです。本展では、元々の展示内容をピースあいちに合わせてアレンジしています。

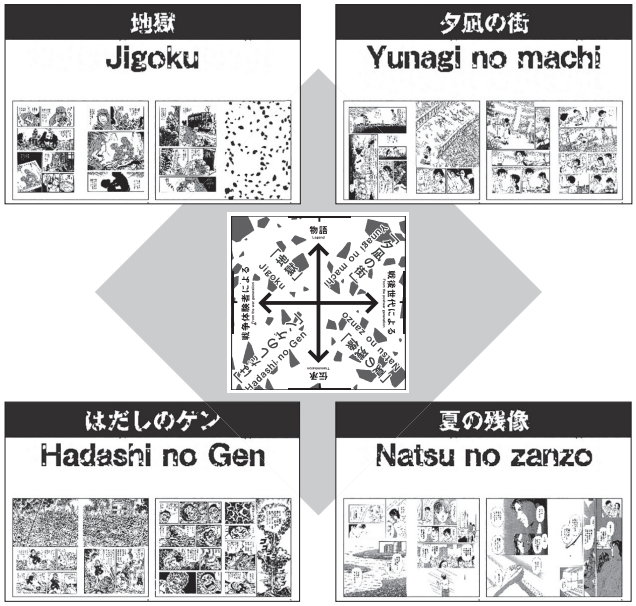
メインの展示では、「原爆」「特攻」「満州」「沖縄」の4つのテーマをそれぞれ4つの象限から、16の戦争マンガをパネルと関連資料で紹介しています。一つのテーマでも様々なベクトルを持った作品が作られてきたことがわかります。

また、「2つの物語」として、名古屋出身のおざわゆきさんによる『あとかたの街』、若い世代を中心に話題を呼んだ汐見夏衛さん原作・マツセダイチさんマンガの『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』を紹介します。

戦争を自ら体験したマンガ家による作品には、切れば血が流れ出るような切実さがあり、私たちの心を強く打ちます。また、戦後生まれのマンガ家からは、豊かな想像力や大胆な着想による新しい作品が次々に生み出され、若い読者の興味や共感を呼んでいます。

戦後80年を目前に、マンガという切り口を通して、今一度、戦争を見つめ直していただければ幸いです。

◆展示作家◆
【テーマ展示】花村えい子　里中満智子　松本零士　本宮ひろ志　中沢啓治　辰巳ヨシヒロ　西岡由香　こうの史代　ちばてつや　田河水泡　村上もとか　安彦良和　ほし☆さぶろう　今日マチ子　新里堅進　三枝義浩
【2つの物語】おざわゆき　汐見夏衛　マツセダイチ



●2つの物語

©おざわゆき 講談社BE・LOVE

©Daichi Matsuse 2022
©Natsue Shiomi 2022
（スターツ出版刊）

◇関連イベント◇
トーク『マンガが語る戦争～戦後80年・その先へ』

私たちが身近に親しんできたマンガ。「戦争」という共通項で集めたら、何が見えてくるでしょうか。不戦平和を国是として再出発したはずなのに、好戦的な作品が今よりもたくさんあった1960年代のフシギ。また、レディスコミックなどのエンタメ色が強いメディアにも、意外な傑作が隠れていたりします。不朽の名作あり、ローカル限定のメディアあり、新世代の台頭ありの戦争マンガの系譜。私たちの知らない「戦後戦争マンガ史」を、気鋭のマンガ研究者であるイトウユウ氏にたっぷり語っていただきます。

日時：2024年7月28日（日）13時～15時
場所：ピースあいち1階交流のひろば
ゲスト：イトウユウさん（京都精華大学国際マンガ研究センター特任准教授）
料金：無料（入館料または企画展入場料が必要です）
定員：50名
※要事前申し込み
①電話　052－602－4222　②WEB

予告　子ども企画展「戦争の中の子どもたち」と「戦争と動物たち」展

10月1日（火）～11月23日（土）

世界各地の戦争や紛争で、子どもが犠牲になっています。日本でも、80年ほど前の戦争の時代には子どもたちが戦争の犠牲になりました。軍国教育を受け、軍事一色の生活を送っていたことが、当時の教科書や子ども服、学用品、おもちゃなど、展示資料からわかります。

また、動物たちも戦争の犠牲となりました。「ゾウを守った東山動物園」を中心に、戦争に使うために戦場に送られたたくさんの馬やハト、そしてウサギ、イヌ、ネコなど身近な動物たちの犠牲にも触れています。

当時と今の違いをみつめ、「戦争と平和」について考えたいと思います。

◎今年も、ピースあいちの語り手・語り継ぎ手が「戦争体験」をお話します。

ピースあいち2024年夏 戦争体験を聴くシリーズ

会　　場　ピースあいち1階交流のひろば
開催時間　14:00～15:00
参 加 費　入館料（大人300円　小中高生100円）、または特別展観覧料（大人500円、小中高生200円）でご参加いただけます。

定　　員　各日40人。お電話でご予約ください。
TEL. 052-602-4222
＊8月6日・9日・15日は、オンラインでも参加できます。申し込みはQRコードから。（参加無料）

開催日 8月／	語り手	開催日 8月／	語り手
1日（木）	井戸　早苗さん（語り手の会） 空襲下の暮らし・戦後の暮らし	9日（金）	大山　妙子さん（語り継ぎ手の会） 叔父・伯母の長崎原爆
2日（金）	望月　菊枝さん（語り手の会） 学徒勤労動員体験	10日（土）	中川　弘美さん（語り継ぎ手の会） 母の戦争下の青春
3日（土）	小澤美由紀さん（語り継ぎ手の会） 大叔父（祖父の弟）の戦争体験	13日（火）	木下　信三さん（語り手の会） 岐阜県での学童疎開体験
6日（火）	佐々木陽子さん（語り継ぎ手の会） 私のヒロシマ	14日（水）	松下　哲子さん（語り手の会） 在満少国民の体験
7日（水）	富田　祥子さん（語り手の会） 北朝鮮からの引揚体験	15日（木）	八神　邦子さん（語り手の会） 学童集団疎開
8日（木）	森下規矩夫さん（語り手の会） 名古屋空襲体験、戦中・戦後の生活		

愛知・名古屋戦争に関する資料館　戦争体験談を聞く会

ところ：愛知・名古屋戦争に関する資料館　2階会議室
中区丸の内3―4―13 愛知県大津橋分室
時　間　13時30分～
参加費：無料　＊お申込み、詳細は愛知・名古屋戦争に関する資料館（TEL.052-957-3090）へ。

開催日 8月／	語り手	開催日 8月／	語り手
9日（金）	中上　寧さん（語り継ぎ） 「キノコ雲の下で　～家族の被爆体験～」	16日（金）	高山　孝子さん 「岡崎市に縁故疎開　空襲に遭遇」
11日（日）	津田さゑ子さん 「名古屋空襲　戦時下の暮らし」	17日（土）	青木　正雄さん（語り継ぎ） 「海外で戦死した父親の体験」
12日（月）	橋本　克巳さん 「満州開拓団員生活　一人で帰還」	18日（日）	大橋　麻由さん（語り継ぎ） 「満蒙開拓を語り継ぐ～岩見鈴子さんの戦争～」
15日（木）	中村　桂子さん（語り継ぎ） 「娘が語り継ぐ父の沖縄戦」	19日（月）	中野　見夫さん 「熱田空襲」

「なごや平和の日（5月14日）」に協力しています。

名古屋市は、「名古屋空襲の犠牲者を悼み平和な社会の発展に寄与するため」今年から5月14日を「なごや平和の日」としました。5月14日には公会堂で記念式典が開催され、語り手の森下規矩夫さんが空襲体験をお話ししました。7月28日の平和フォーラムには語り手の望月菊枝さんが登壇します。

また、テレビや新聞でも特集が組まれ、高校生ボランティアの活動や、前庭に安置されている「平和地蔵」が紹介されました。

「戦争をどう語り継ぐ?10代に大ヒットの"あの花"」（5月14日NHKで放映）の取材で、『あの花の咲く丘で、君とまた出会えたら。』の作者・汐見夏衛さんとピースあいちの高校生ボランティアたち（ピースあいちで）

報告　ウクライナの子どもたちが描いた絵画展～今戦時下からのメッセージ

5月21日（火）～5月30日（木）

ウクライナのジトーミルとキーウの子どもたちの絵112点が、展示室いっぱいに並びました。いただいた感想はNPO法人チェルノブイリ救援・中部からウクライナへ届けられます。

来館されたみなさんのメッセージ

○あなたの絵を見ていると、心が痛くなり、暖まりもします。こんな戦時下を生きていると思うと、それでも、懸命に生きているんだと思うと。じっくり、1枚1枚にむきあい、見てみました。

○ウクライナがとても美しくとりどりの色にあふれた街なのだということが伝わってきます。また、ウクライナの強さ、勇敢さを大切にし、もとの美しく平和な街をとり戻したい気持ちがよく分かります。早く戦争が終わり、静かな日々、平和なウクライナが戻りますように。

○戦争は何も与えず、ただ奪うだけです。けれど、希望だけは忘れないみなさんの気持ちがとても伝わってきました。青い空や美しい自然、動物たち　必ず戻ってくると信じています。

○すてきな絵なのに悲しくもあるし、悲しい絵の中に希望が見えます。

○自ら戦火の下にありながら、メッセージに、私たち鑑賞者の平和な生活を祈る思いが込められていて、まことにありがたいことと受け止めました。

報告　準常設展「沖縄から平和を考える ―辺野古の海は今」

6月4日（火）～7月13日（土）

今回は特別展示として、「辺野古の海」を取り上げました。その歴史と豊かさ、そして基地建設の経緯、「代執行」についてまとめました。新しい試みとして映像による表現にも挑戦し、より理解を深めてもらえたのではないかと思います。また2階の映像コーナーでは、「沖縄戦の語り継ぎ」2本と「沖縄戦の体験紙芝居」3本を動画で鑑賞できるようにしました。紙芝居のナレーションは、高校生のボランティアが担当しました。

阪井芳貴さんのトーク

2階 映像コーナー

3階 映像による紹介

3階 企画展示室

関連イベントとして、6月23日（日）の「沖縄慰霊の日」に、阪井芳貴さんのトーク「戦中最後の沖縄県知事・島田叡について」と映画「島守の塔」の上映会を行いました。沖縄では上映後、様々な議論が出た映画です。「事実と異なるところはあるが、沖縄戦を知るにはとても良い映画だ」と話されました。

2024年度の「理事会」「総会」を開催しました。

NPO平和のための戦争メモリアルセンターは、5月19日（日）に理事会、6月9日（日）に総会を開催し、昨年度の事業報告と決算報告、新年度の活動計画と活動予算、定款の一部変更を決めました。

報告では、コロナ禍から脱し団体来館が少しずつ増えていること、常設展示の英語翻訳の完成、語り継ぎの活動の推進、資料の収集・保管、図書の整理、映像コーナーの充実、高校生をはじめ新しいボランティアの増加、戦後80年に向け企画展などの準備が始まっていることなど、多くのボランティアの参加で運営されていることが報告されました。

平和へのメッセージ

8月と言えば高校野球。試合が終わり、選手一同、ホームベースの両側に立って挨拶するところがいい。負ければ悔しいけれど、全力を出し切ったあとのすがすがしさがある。数年前、サッカーの大試合の終了後、日本人サポーターがスタンドをきれいに清掃して話題になった。ラグビーは試合後、対戦したチームがお互いに「敵味方なし」のノーサイドになる。スポーツの世界は、勝ち負けにこだわるけれど、どこか人間味がある。人の命を的にする戦争とは根本的に違う。スポーツから学ぶ所は多い。

原爆の語り継ぎを通じて、平和への道を伝えてゆきます

中上　寧
（ピースあいち語り継ぎ手の会）

私も72歳になりました。政治家や有識者と呼ばれる方たちにも、私より若い方がはるかに多くなり、そして粗暴な発言が増えました。憲法9条を抹消しろ、憲法に自衛隊を明記しろ、果ては核軍備を視野に入れよ等々。平和への努力を怠ろうとしています。

ピースあいちで長崎原爆の語り継ぎを始めて、5年目になりました。長崎に生まれ育った者は、私も含めて、両親・親族や近隣の原爆体験者から、自然とその悲惨さを見聞きします。でも実際の戦争を知らない私が、なぜ語り継ぎをやるのか? そのきっかけは高校2年に遡ります。春のある日、担任の先生から「明日はストライキがあるから授業はないが、皆は登校しなさい」との指示でした。当日、自習時間を持て余す私たちの前に、「教え子を戦場に送らない」の缶バッヂを付けた先生方の姿がありました。先生方は私たちより15歳から20歳位年上で、実際に空襲の爆弾をかいくぐり逃げ回った、戦争の怖さを知っている方たちでした。「戦争はいけない。平和を！」。空襲をかいくぐり生き残った先生方の、私たち教え子へのメッセージでした。

親族や先生方に示していただいた平和への道を、今後も原爆の語り継ぎを通じて、伝えてゆきます。

「なごや平和の日」の2つの源流

西形　久司
（高校教員 当NPO理事）

今年は「なごや平和の日」のスタートの年となった。「平和の日」制定に関わった一人として、「平和の日」の意味にふれてみたい。

「平和の日」の源流の一つは、戦災傷害者の運動にある。2016年に101歳で亡くなられた杉山千佐子さんたちは、民間の戦災傷害者に対しても、国は謝罪し補償すべきだと求めてきた。国がなかなか動かないなかで、名古屋市はささやかな見舞金を支給することにした。私自身は、この制度が発足した時から、審査員を務めてきた。空襲で生涯にわたる傷を負ったまま生きてこられた方々にわずかでも光を届けたいとの思いであった。全国でも民間人を対象とした制度を続けているのは名古屋市だけである。

もう一つの源流は高校生たちの運動である。東邦高校のエントランスには、戦後50年の年に、空襲で亡くなった先輩を慰霊するために建てた「平和の碑」がある。この碑文が優れているのは、「先の大戦」とか「我が国の」といったような限定する文言がなく、「戦争の犠牲となられたすべての方々」、つまり時代も国境も超えたすべての戦争犠牲者に向けて平和を誓っていることである。このような碑文も、ほかでは見たことはなく、未来の担い手を育てる学校という場にふさわしいものである。その思いが脈々と受け継がれていることは、5月14日の「平和の日」の式典で東邦高校生が発表した感動的なメッセージによく表れているのだが、これについてはまた別の機会に。

当たり前に平和を望む

杉浦　宇子
（弁護士）

父は11歳で豊橋空襲を経験しており、その父親（私の祖父）がガダルカナルで戦死している。母は5歳の時、東京大空襲で焼け出され、両親（私の祖父母）の実家のある富山県に移り住み、戦後すぐ極貧生活の中で大好きだった兄（私の伯父）が病死している。

両親からは、幼い頃からよく「二度と戦争をしてはいけない」「平和が大事」と言われた。戦争を扱った映画に連れていかれ、ドラマやドキュメンタリーのテレビ番組を家族で見た。

両親自身の戦争体験も聞いたが、それほど多くはなく、生々しい話はない。20年やそこらで癒えるようなトラウマではなく、まだオブラートに包まないと語れなかったのだろう。両親が年老いて、私が初めて聞く話を語ることもある。淡々とした感情のこもらない声の中に、子ども時代の言語化不能の深い悲しみと怒りが滲んでいる。

私（1967年生まれ）は、揺るぎない「平和大好きの戦争大嫌い」人間に育った。

戦争は間違いなく生涯にわたる苦しみを与える人権侵害。

戦争は世界中で殺して良い人、駄目な人を区別する差別の権化。

戦争が必要でない世界をつくる智恵を沢山出し合って実践する社会がいい。

「平和探求プロジェクト」の取り組み

藤原　愛奈
（専修学校クラーク高等学院名古屋校教員）

本校では、生徒が興味や関心をもとに課題を立て、解決に向かって探求を行う「PBL」を導入しています。この一環のもと発足した「平和探求プロジェクト」は、戦争体験者にインタビューし、聴き取った内容をオーラルヒストリーとしてまとめ、市民へと語り継いでいくことを目標としています。戦争体験者が減少していくなかで、戦争体験者の方からお聞きした話を非戦争体験者である高校生が、次世代へと語り継いでいく活動は、社会にとって非常に有用だと感じています。

一教員としては、ロシアによるウクライナ侵攻やガザの紛争が起こる世相の中で、「戦争」を、どこか遠い国の話・遠い過去の話として捉えるのではなく、自分の内面のものとして捉えてほしいと思っています。日本が戦争を繰り返さないように、私たちは戦争の歴史から何を学び取り、どう活かしていけばいいのだろうか。平和であることは大切ですが、そこで思考をストップせずに、平和であるためにはどうしたらいいのか、というところまで考えてほしいと願っています。

1945年8月15日

高山　孝子
（ピースあいち語り手）

1945年8月15日は、日本が引き起こした、第二次世界大戦で負け、降伏した日です。8月15日、今思えば夏休みのはずですのに、関西から疎開した岡崎は、学校がありました。それも二部授業だったと記憶しています。午後からの授業でしたので、午前中は家に居ました。昨日まではB29が来襲し、警戒警報や、空襲警報が鳴り、さわがしく、恐ろしい日々でしたのに、何故かシーンとした気配、空気が澄んでいました。真青に晴れ渡った空、高い空の中を銀色の飛行機が、一機だけ音もなく飛び去って行ったのを、鮮明に覚えています。シーンと静かでした。

父は出征し、母子だけの疎開者には何の情報もありませんでした。夕方になり、戦争に負けたと知りました。

何もかも失った日本、裸になったさわやかさや明るさを、何故か、感じました。

今は“重い荷物”が付き過ぎています。完全に軍備されています。攻めて来られる！

日本は島国です。戦争を放棄した国です。永世中立を貫いている国もあります。日本も憲法を大切に、戦争をしてはいけません。戦争は犯罪です。

中国・唐の詩人杜甫が書いています。

国破レテ　山河在リ　城春ニシテ草木深シ

国は破れても山河は在ります。平和になれば、戦うための城にも草木が茂り、用を為しません。（意訳しました）

報告　みなさんへの感謝を込めて
ピースあいち開館17周年　ピースまつり　　5月4日（土）

「瀬戸アンデスの風」のみなさんによるフォルクローレでオープニング。「コンドルは飛んで行く」から「野に咲く花のように」やウクライナに思いを寄せた映画「ひまわり」のテーマなどへと続きました。演奏に使われたケーナやチャフチャスなど楽器の解説もあり、和やかな雰囲気。「また来てね」と、終わってからも来館者との話が尽きませんでした。

午後はピースあいち朗読の会「オリーブ」による朗読会。「トットちゃんの15つぶのだいず」「戦争をやめた人たち　1914年のクリスマス休戦」など、熱演に大きな拍手を受けました。また、常設展示、企画展「名古屋空襲を知る」の展示ガイドも行いました。

ピースあいちの語り事業

語り手と語り継ぎ手の交流―第14回「語り手の会」例会　　6月16日（日）

今回は、会員9人（7人が欠席）に加え、語り継ぎ手の会会員10人が参加しました。

会員からは近況報告や、「戦争をなくすことが、戦争体験を語る目的だと信じている」「戦争体験者は私たちだけで結構。若い人にはそういう体験をしてほしくない」「『平和の日』制定への若い人の取り組みは大きな前進であり、感謝したい」などのお話がありました。

語り継ぎ手の方からは、「語りは命の叫びであり、『戦争の悲惨さ、むごさを二度と経験してほしくない』という気持ちが伝わります。私たちの背中を押してください」と、語り手への敬意と、語り継ぐ決意が語られました。これからも、両会の交流と連携を深めていきます。

● 語り手の会例会

賑やかに語り継ぎ手の会（リボン）総会　　4月21日（日）

雨模様の中でしたが、26名が参加し戦争体験語り継ぎ手の会（リボン）総会が賑やかに開かれました。戦争体験者の方の「語り」が年々減っていく中、「記憶の継承」を目指して、2017年にリボンが発足しました。その後、新たなメンバーも加わり、相互の交流と学びを続けてきました。

総会で報告されたリボンの活動状況から、多くの機会でリボンのメンバーが「語り継ぎ」を実践していることが分かり、年々リボンの存在が重要になってきていることが報告されました。今年度は新たに同じような語り継ぎの活動に取り組んでいる団体などと交流しようなどの活動方針を決めました。

後半は「会員の交流タイム」。「1人3分までですよ～」との進行役の呼び掛けがありましたが、タイムアップ！時間オーバーも続出。皆さん「語り足りない」という表情を浮かべて交流タイムの終了を迎えました。

● リボン総会

「2024年あいち平和のための戦争展」に参加します！

8月15日（木）～18日（日）10:00～17:00（最終日は16:00まで）

◆名古屋空襲展～名古屋の街はどの様に焼かれたのか？～

ところ　市民ギャラリー矢田（入場料500円）

名古屋空襲研究会を中心に、高校生のつくるジオラマ、ピースあいちのパネルなどで構成。

◆朗読と歌のピースステージ

8月18日（日）10:30～11:30　東文化小劇場

ピースあいち朗読の会「オリーブ」の出演です！

○朗読　峠三吉「原爆詩集より―にんげんをかえせ」

出演　伊藤真利・大島ゆかり・荻野克典・小野田孝子・高野桂子・田島美代子・東野裕子

○歌　鶴／群青／風に立つライオン

出演　荻野克典（シャンソン歌手）　ピアノ伴奏／きとうひかる

シリーズ
平和を守る仲間たち⑳

記録して50年 岐阜空襲を記録する会

1945年7月9日、米軍の空襲で岐阜市は焼け野原に。ひと晩でおよそ900人の命が奪われました。

「この惨禍を後世に伝えるべき」と、篠崎喜樹（現代表）らによって、1974年に「岐阜空襲を記録する会」が発足しました。地方都市では早い時期のスタートで、市民の賛同と行政の協力も受け、戦争体験者たちの記憶が鮮明な時期に、記録集や証言集をなども出版しました。

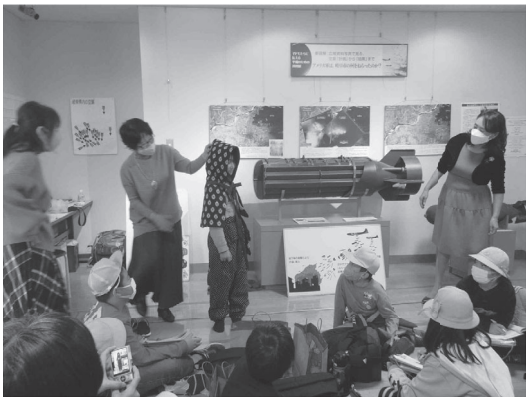
2002年には、岐阜市が管理運営する『岐阜市平和資料室』がJR岐阜駅近隣につくられ、展示制作と資料管理を任されています。

近年は会員に、コピーライター、イラストレーター、アナウンサーなど、表現や制作職業の女性が集まり、子どもに分かりやすく伝えることに力を注いでいます。

近年のおもな活動です。

・岐阜市主催『子どもたちに伝える平和のための資料展』の制作（毎年7月上旬開催）
・岐阜市平和資料室の資料&パネル提供と管理
・岐阜市主催『平和の鐘』*で「岐阜空襲の解説」役（＊岐阜が空襲された7月9日に平和を祈念する式典）
・平和講座（年間10～17件）
市内の小中学校や、団体、近隣自治体からの依頼で、「岐阜空襲」の話や「戦時の子どもや中学生」のお話をしています。

中島　裕子（岐阜空襲を記録する会）



ボランティアの窓

平和をつくる3つのピース

水野 早苗

先日、リニューアルした京都の立命館大学平和ミュージアムに行ってきました。印象に残ったのは、平和をつくる3つのピース。①国際機構②市民社会③人間の安全保障と国際平和です。様々な国際法や憲章、宣言などがありますが、なによりも、日本国憲法が平和の土台として存在することが示されていて、誇りに思いました。

展示では日本と戦争のかかわりだけでなく、ロシアのウクライナ侵攻まで展示されていて、世界中で今なお戦争が続いていることを強調しています。イスラエルの空爆にさらされる前のガザの街の写真展も開催されていたのですが、街角で立ち話している市民の写真をみながら、この人たちは無事でいるだろうかと、思ってしまいました。

父の想い

髙野 桂子

私の父は昭和一桁生まれ。だが、戦争について話を聞いたことがない。父は長崎市出身。原爆投下の時点でどこにいて、どうしていたのか……。直接聞けばよかった。でも、なぜかできなかった。

父は60歳で脳梗塞に倒れ65歳、私が27歳の時に亡くなった。今となっては聞くことはできない。

父は、まだ子どもの私に「お前はどう思うのか?」といつも聞いた。自分で考えろといつも言っていた。それは、父が子どもの時から学んだこと、自分が信じていたことが、戦後、根底から変わってしまったことによるのかもしれない。今となっては確認する術はないが。

父は私が知る限り、死ぬまで長崎に1度も帰らなかった。

資料館探訪 38

ウトロ平和祈念館　―京都府宇治市―

ウトロという地名は「宇土口=うどぐち」が誤読され定着したといわれています。戦時下、飛行場の建設工事に約1300人の朝鮮人労働者が集められました。彼らの多くは戦後も教育や就職、結婚、生活のあらゆる場で差別を受けながら、ウトロに住み続けました。

ところが、その土地が民間企業に転売され、強制立ち退きを迫られたのです。ウトロの人々は、生活と権利を守るため立ち上がりました。それを日本市民や国際社会、韓国政府が支援に乗り出し、やがて土地問題は解決。今は日本政府、京都府、宇治市による住環境整備が実施されています。

その後、2022年4月に開館したのがウトロ平和祈念館です。私は昨年8月に祈念館に行き、キムスファン副館長にお会いしました。「館設立にあたりピースあいちを見学し、大変参考にさせていただいた」とお礼を言われました。ガイドさんの案内で館内を見学しました。

1階は事務室兼会議室兼カフェのようなくつろげる場所です。2階は常設展示室。ウトロ地区や在日朝鮮人の歴史、そして今の状況について、見やすくわかりやすい展示です。3階は企画展示室。住人たちのプロフィールや言葉、放火事件*の経過などが展示してありました。屋上にはソーラーパネル（おひさま発電所）が設置されています。

ＨＰには「歴史を継承するだけではなく、地域の人々に開かれ、コミュニティーの拠点として日本と朝鮮半島の未来を担う人たちの出会いと交流の場、人権と平和の大切さを願う」という趣旨が書かれています。京都旅行の際にはぜひお出かけを!　（Y.Y）

*2021年8月に起きたヘイトクライムによる放火事件。倉庫に保管されたウトロを象徴する立て看板などが焼失した。被告に懲役4年の判決。

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン（無料）」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

新会員を大募集中!! 知人・友人にもお伝えください。

「ピースあいち」は、民営でボランティア運営でも、光熱費・固定資産税等で施設維持に年1200万円かかります。他方で収入は、展示会などで来館された方の入館料（大人300円、こども100円）は、年100万円にとどきません。多額のご寄付や助成金がとても大きな助けになっていますが、毎年予定できるものではありません。最も頼りになるのは、会員の皆様からいただく年会費収入です。正会員6000円、賛助会員3000円です。いま、正会員が約330人、賛助会員は約400人。もっともっと増やしたいのです。

「ピースあいち」の活動に共鳴していただける方なら、どなたでも大歓迎です。電話・Fax 052-602-4222にご一報ください。クレジットカード、銀行振込で入会、寄付していただけます。

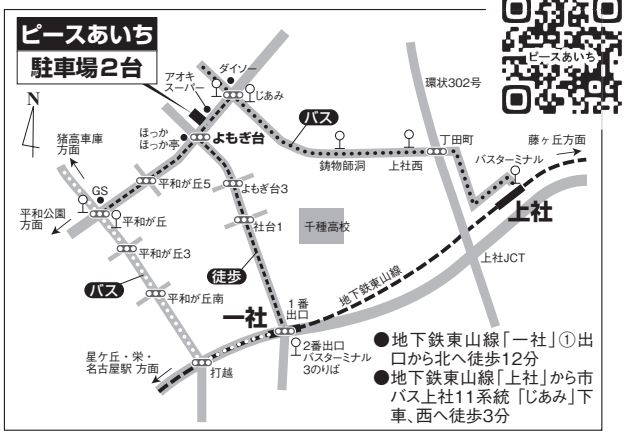
オンラインの**入会**はこちら

オンラインの**寄付**はこちら

【利用案内】

- 開 館 日　火曜日～土曜日
- 開館時間　午前11時～午後４時
- 休 館 日　日曜日・月曜日
- 入 館 料　大人300円・小中高生100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下のくらし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験動画のライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります（300円）。他に障がい者用が1台分あります（無料）。

■交通のご案内



●編集後記●

たいていの家には、戦争にまつわる話がありました。満洲（中国東北部）から引き揚げてきた「おばさん」は、途中、男装で日本を目指しましたが、一つ間違えれば命も危ないところだったそうです。名古屋の自宅にいた長兄は、空襲に遭って、あと30秒逃げるのが遅れていたら命は無かったと言います。次兄は空腹のあまり、近所の畑からサツマイモの蔓を盗んで、母親に張り倒されたそうです。今年のピースあいちの夏の特別企画「マンガと戦争展」は、何千何万のこうした話が材料です。『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』は涙なしでは読めません。　（S.K）